シンポジウム

荘園研究の現在と未来

海老澤を研究代表者とする科学研究費基盤研究 (A) (一般)「既存荘園村落情報のデジタル・アーカイブ化と現在の IT 環境下における研究方法の確立」は、本年 7 月に研究成果として『中世荘園村落の環境歴史学—東大寺領美濃国大井荘の研究—』(吉川弘文館)を刊行することができ、早くも内容に関わる評価をいただいているところであります。しかしながら、この科研が目指しているパイロットモデルの豊後国田染荘から始まる一連の共同研究に関する総括については未だその途上にあります。

思い起こしますと、1993 年 5 月から始まった海老澤研究室の田原別符の調査からすでに 25 年を経過し、荘園調査と並行して行ったバリ島のスバック (水利の共同体) 調査などを含めて、その全体像を捉えることは当事者にとっても容易なことではありません。

幸いにも優秀なスタッフに恵まれたため、「海老澤表研究室 HP」に克明な記録が残され、一応整序できるのですが、鮮明な像を結ぶにはほど遠い状況にあります。海老澤は 2019 年 3 月をもって定年退職を迎えるため、ここで共同研究の時々の成果を確認し、合わせて今後への見通しを立てる必要があると思ったところです。2018 年 9 月 5 日にはシンポジウム「荘園調査と web 公開—備中国新見荘から美濃国大井荘へ—」を開催し、荘園調査の技術的問題を中心にその成果を確認したところですが、今回は以下のようにフィールドワークの有効性と共同研究との関係を考えていきたいと思えます。

なお、下記の〈講演〉を海老澤の「最終講義」とさせていただきます。

海老澤表

日時 2019 年 3 月 16 日(土)13:00~17:10 (開場 12:30)
会場 早稲田大学戸山キャンパス 36 号館 382 教室

13:00-13:10 趣旨説明 (海老澤表)

〈個別報告〉

13:10-13:35 高木徳郎「大学院ゼミによる荘園調査の意義—紀伊国鞆淵荘の調査—」

13:35-14:00 堀 祥岳「照葉樹林の信仰・赤米の里—対馬豆酸での取り組み—」

14:00-14:15 休憩

14:15-14:40 下村周太郎「水利社会論と水辺環境論とのあいだ—弓削島荘/上桂荘で考える—」

14:40-15:05 似鳥雄一「広大な荘域の調査を、新たな視点と技術で—備中国新見荘をひらく—」

15:05-15:30 三浦恵子「バリ島のスバックと世界遺産」

15:30-16:00 コーヒーブレイク

〈講演・最終講義〉

16:00-17:00 海老澤表「荘園の生成・発展・消滅に関する新たな見解
—フィールドワークから見えてきたもの—」

17:00-17:10 閉会の辞 (高木徳郎)

主催：早稲田大学総合人文科学研究センター 研究部門「トランスナショナル社会と日本文化」

共催：科学研究費基盤研究 (A)「既存荘園村落情報のデジタル・アーカイブ化と現在の IT 環境下における研究方法の確立」